問合先　市民病院（☎76 - 4131）

開院から約3カ月。新市民病院のこれから

谷口　健次　院長

昭和37年2月生まれ
三重県四日市市出身

昭和62年から小牧市民病院に研修医・外科医師として勤務。
その後、名古屋大学医学部付属病院他の勤務を経て、平成8年から再び小牧市民病院に勤務し、平成28年度に院長に就任。
「安全と質に重点を置いた医療を行うこと」、「おもいやりの心を大切にして患者さんに寄り添っていくこと」、「地域の安心につながる医療を提供していくこと」を目指していく。

5月1日に開院した新市民病院。開院から3カ月を迎えた現在の状況を院長に伺いました。

Q ゴールデンウィーク中の移転の際、どのような苦労がありましたか？

A 様々な容態の患者さんをどうしたら安全に搬送できるか、また、限られた期間で医療機器をはじめ多くの機材・物品をスムーズに移転し、5月7日の診療開始を迎えることができるかが課題でした。このため、8カ月前から調整会議を重ね、運用手順書の作成に取り組むなど準備を進めました。患者さんの搬送にあたっては、事前リハーサルを2回行うなど、周到に準備したうえで実施し、無事に終えることができました。

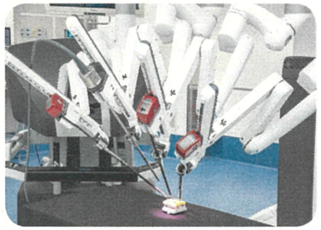
Q 新病院の特にPRしたい点は何ですか？

A 安心して暮らせる地域の医療機関として「安全で質の高い急性期医療を行うこと」を理念の1つとしています。既存の医療機器、設備をバージョンアップするとともに、新たに手術支援用ロボット「ダヴィンチ」の導入をはじめ、手術室と血管撮影装置を組み合わせた内科的治療と外科手術を一緒に行うことができるハイブリッド手術室の設置、また、がんの早期発見など、がん診療をより充実させるためにPET・CTを新たに導入するなど、より高水準で良質な医療を提供できるようにしました。
また、個室数を増やし、大部屋でも4人部屋までとして、各ベッドに明かり取り用の窓を設置するなど、アメニティの向上を図り、患者さんの療養環境も改善しました。

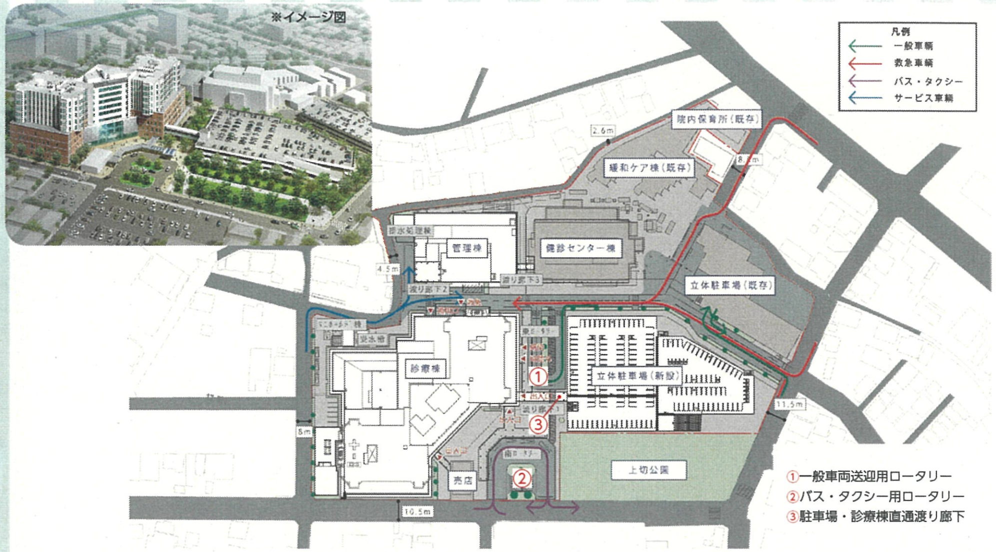
▲窓が多く明るい雰囲気の４人部屋

Q 開院当初は慣れない中で苦労されたのではないですか？

A 診療科の配置や受付方法が変わり、来院される方は戸惑いも大きく負担をおかけしたものと思います。この負担を少しでも軽減するため、開院以来、入口をはじめ各フロアの適所に職員を配置し、患者さんのご案内・ご支援に努めてきました。
また、新たなシステムへの適応に時間を要し、診察や会計に時間がかかり　開院からしばらくの間ご迷惑をおかけすることとなりました。現在では、システムの修正や運用の見直しなどを図り、診察・会計共に待ち時間は短縮されています。



▲手術支援用ロボット「ダヴィンチ」



Q 患者さんの動線が長いと聞いていますが、今後、解消されていくのでしょうか？

A 今後は旧病院を解体し、ロータリーの整備、立体駐車場の建設に着手する予定をしており、これらが整備された後は新病院へのアクセスが格段に向上します。
まずは、新病院の東側に来年4月頃をめどにロータリーを整備する予定です。これにより、新病院東側へ直接車を付け、車椅子などへの乗り換えができます。また、来年12月頃をめどに新病院南側にコンビニを移設した後、バスやタクシーが利用するロータリーを整備し、新病院東側の立体駐車場整備に着手します。
立体駐車場は、駐車場2階から新病院の2階へ直接アクセスが可能です。
現在、新病院へのアクセスには大変ご不便をおかけしております。駐車場の渋滞緩和やロータリーからの車椅子の介助など、できる限りのご支援に努めてまいりますので、ロータリーや立体駐車場を整備するまでの間のご利用にご理解をいただけますようお願いします。

▲ハイブリッド手術室

Q 患者さんからの要望・意見に対して、今後どのように取り組まれていきますか？

A 開院以降、診察・会計に伴う待ち時間の問題や、施設利用に関するわかりにくさ・不便さに対して、様々なご要望・ご意見をいただいています。
これらについては、当院に対する期待の大きさであり、改善に向けたアドバイスであると認識しています。職員間で共有し、早急に対策を検討することで、少しでも早く皆様のご期待に沿えるように努めていきます。

Q 今後さらにどのような機能を拡充して地域医療に貢献していくのでしょうか？

A 国がすすめる地域完結型医療を推進し、医療を通じて安心して暮らせる地域の実現に貢献していきます。
まず、地域の医療機関との役割分担、連携をさらに充実し、地域全体の高度急性期・急性期医療のレベルアップを図ります。
また、救急医療が必要となった患者さんを速やかに受け入れられるように、救急部門の拡張、整備も行いました。
入院医療では、患者支援センターが入院前から患者さんに携わり、地域での生活を視野に入れた質の高い入院医療の提供から、回復期の連携病院や在宅につなげる切れ目のない支援を提供することによって、患者さんの安心につなげます。
尾張北部医療圏の救命救急センター、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院として、他病院では受け入れが難しい患者さんにも最善の医療を提供することで、その使命をしっかりと果たしていきます。